

● JICA国内研修ゲンバ訪問記 VOL. 33
洪水関連災害専門家育成 @ 茨城編

OJAMA-SHIMASU

たけだみりこ

4月×日午前10時
東京都杉並区・環状7号線沿いの善福寺川取水施設

この近くに住んでたんだよね、すごい変わった。

2階の会議室では神田川水系の改修について講義が始まった。

善福寺川を含む神田川水系では、1時間に50ミリの豪雨に対応できるよう整備が進められています。

この建物の横を走る環状7号線の地下には直径12.5メートル、全長4.5キロの巨大なトンネル状の地下調節池が横たわり、

1997年の使用開始以来、20回もの洪水で未然に防いだそうです。

5万立方メートルめりれる

東京都市建設事務所の内田さん、研修管理員の河野さん

隣の部屋に移り模型を見ながら取水から地下調節池に流すまでの仕組みの説明を受け

川の水位が基準値を超えたら取水口を開けて水を取り込み

その水はらせん状に回転しながらこの減勢池に落ちてためられて

このトンネルを通過して地下調節池に送られます

中央制御室を見学した後、

ここは平常時はリモートコントロールで無人稼働していて、データは都庁でも確認できるようにしています

では、いよいよ下に行きますか

エレベーターで本物の地下調節池へ。下がりまーす

43メートル

エレベーターを降りポンプ室の脇の小さな扉を開けると

ひんやりして、水がらせん状に落ちてくるわけですよ

ここから続く暗闇のトンネルをライトの明かりを頼りに歩いて

この網目模様はなんですか？

この前点検補修をした跡です。小さいひび割れなど45キロくまなくチェックしました

さらに大きなトンネルへ!!

ここが環七地下調節池です

そのスケールの大きさに研修員たちはテンションもかなり上がっていた

これが45キロ続くトンネルのイメージ

その後の質問タイムでは

じゃあ何か質問ありませんか？

ここが環七地下調節池です

今ご紹介する研修は、JICA 筑波と土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センターの協力で行われている「洪水関連災害専門家育成」。近年、世界各地で水災害が増加し、被害が深刻化している。特に開発途上国では水災害専門家不足、人材育成が急がれている。この研修は、数多くの水災害を経験し、対策に努めてきた日本のノウハウを生かして、途上国の水災害軽減に取り組む人材を育成することが目的だ。ユニークなのは、政策研究大学院大学の修士課程「水災害リスクマネジメントコース」と連携していることで、研修員は1年間の研修修了後、審査に合格すれば「防災政策」の修士号を取得できる。現在、バングラデシュ（2人）、中国（2人）、インド、ネパールの洪水対策に携わる技術者らが研修中。日本の洪水災害防止の法制度や、洪水リスクの評価・軽減の知識、技術、治水の計画技術などを学び、自国の課題解決に向けた方策を作成すべく、研究に励んでいる。研修では、日本の洪水被害軽減のための施設の視察も行われ、私たちは東京・横浜の調節池や可動堰の視察旅行に同行。日本の技術を駆使して造られたさまざまな施設に、研修員は驚くとともに、自国での対策を考える多くのヒントを得たようだった。

なぜ、あんな深いトンネルに造ったんでしょうか？

現在の東京では用地の確保が難しいので地下に造ったほうがコストも時間も節約できるんです

費用対効果はどうなんだろう？

建設には100億円かかりましたが、かつてこの地域で起きた洪水の被害額は10億円でしたので、数回洪水を防いだ時点で元はとれています

取水した水に含まれているゴミはどうするのですか？

大きいものはフィルターにかけてますが、汚泥などはどうしてもたまってしまうので、年に一回掃除するのですか？ その掃除にもかなりの費用がかかりますよ

ポンプでの排水にはどのくらいコストがかかりますか？

コストは結構かかるとは思いますが、品質が集中して、メンテナンスが楽です

12時 善福寺川取水施設を後にして、一行はバスで泊江市の多摩川、二ヶ領河原原址に移動

天気もよくなったので運を見ながらランチ

ここは1974年の台風で堰が激流をせき止めたため、堤防が決壊して大水害となったところ

今のあの堰は昔より40メートル下流に造られた法重を調整できる可動堰なんです

お弁当を食べながら講師の田中さんと栗林さんにお話を聞いた

それにも関わらず、環七地下調節池はすごいです

みんなもびっくりして、さうさうええ

東京は町が出来上がってからのから、しかもうがなかなたけど、これからの国は、お金をかけてあんな大規模なものを作る、なくともいい計画、計画的に開発することをお考えです

研修員たちにはあれを見てください、あれは素晴らしい例ではないですか？

あれはそれほど彼らにとってはよい例ではないですか？

日本の優れた技術を、失敬を含めた日本の経験から何かを学んでほしいですね

研修員たちは1年で修士号をとるので、普段は講義や研究などのデスクワークでかなり忙しいんですが、今日は机上で学んできたことを実際に見るのができて、いい刺激になると感じています

昼食後、多摩川決壊の碑を囲んで当時の水害の様子やその後の取り組みについて聞き

雨水貯留浸透技術協会の尾部さん、木嶋さん

再びバスに乗って移動

横浜市港北区の鶴見川多目的遊水地と

この一帯が全部そうなんですか？

いざという時はあのスタジアムの下まで水がためられるようになってるんですよ

横浜市緑区の鶴見川調節池を訪れ

ここは昔は二ヶ領川に市民が有効利用されています

こういう施設ってよく見ると結構あるんですよ

日本では開発の規模に応じて調節池を造ることが義務付けられています

この日の研修は終了。

今日の感想

日本は自然条件も地形も違うので、そのまま取り入れることはできませんが、遊水池など参考にできるところはたくさんあると思います

地下調節池はその規模の大きさに驚きました

自分の国では資金面で日本のようにはいかないですが、スケールダウンして取り入れることを考えたいです

都市化によって洪水が起きる仕組みがよくわかりました

日本の高度な技術と組織化された運営洪水克服の経験など、とても参考にになりました

中国のリリさん、中国のタイさん

バングラデシュのアミルさん、インドのパーマンさん

水害に負けない安全な町をつくらせてください

おわり

たけだみりこ 漫画家。4コマ、ショート、料理漫画を中心に活動中。著書に『セクションの食卓』『異国のメシー』『クッキング カンタン』『キッチン』など。http://majop.com/Neji/